

平成22年5月10日現在

研究種目：基盤研究（A）
 研究期間：2006～2009
 課題番号：18203031
 研究課題名（和文）ソーシャルワークの特性に関する実証的研究 ―ケアマネジメントとの
 関連をもとに
 研究課題名（英文）Demonstrative Research on Characteristics of Social Work:
 From the Relationship with Care Management Practice
 研究代表者
 白澤 政和（SHIRASAWA MASAKAZU）
 大阪市立大学 大学院生活科学研究科・教授
 研究者番号：20094477

研究成果の概要（和文）：

ソーシャルワークとケアマネジメントとの関係について整理すると、ソーシャルワークの主要な方法がケアマネジメントであるということを明らかにした。さらに、このケアマネジメントが明らかになることで、ソーシャルワークの内容が部分的ではあるが明らかになってきた。ただし、ソーシャルワークを構成するためには、地域社会を対象とした支援が必要であり、その部分での方法の明確化が不十分であることが明らかになった。そのため、地域社会への支援過程について研究を行い、結果として、ケアマネジメントと同様に plan→do→check→action の流れで展開していること、さらにはそのでは、地域住民との信頼関係の構築が重要であること、同時に支援計画の内容にはいくつかの種類的活動に分かれることを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：

The purpose of this research is to clarify the relationship between social work and care management. At first, we understood that care management is main method of social work but that social work contains other aspect method which focused on community. So, we tried research the method of solving for community needs and got the result that process of support for community based on practice circled plan, do, check, and action, that relationship between social worker and citizens of community is important to sustain the practice, and that there are some kinds of action within support plan for community.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	5,300,000	1,590,000	6,890,000
2007年度	4,700,000	1,410,000	6,110,000
2008年度	5,600,000	1,680,000	7,280,000
2009年度	6,300,000	1,890,000	8,190,000
総計	21,900,000	6,570,000	28,470,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会福祉学

キーワード：ソーシャルワーク

1. 研究開始当初の背景

ケアマネジメントが社会的に重要な役割を果たすことになってきたが、それとソーシャルワークの関係を明らかにすることにより、ソーシャルワークの有効性を示す必要があ

った。

2. 研究の目的

そのため、ソーシャルワークのケアマネジメントとの関係を整理し、さらにソーシャルワ

ークの独自性はどこにあるのかを示し、その独自性を具体的に示すことにある。

3. 研究の方法

このために、高齢者、障害者、児童、医療等のそれぞれの領域別でソーシャルワークとケアマネジメントの関係を実践分析することで、明らかにすることとした。さらに、ソーシャルワークの独自性として明らかにしてきたことを、事例分析する質的研究で整理することとした。

4. 研究成果

ソーシャルワークの主要な方法がケアマネジメントであるところを明らかにした。さらに、このケアマネジメントが明らかになることで、ソーシャルワークの内容が部分的ではあるが明らかになってきた。ただし、ソーシャルワークを構成するためには、地域社会を対象とした支援が必要であり、その部分での方法の明確化が不十分であることが明らかになった。そのため、地域社会への支援過程について研究を行い、結果として、ケアマネジメントと同様に **plan→do→check→action** の流れで展開していること、さらにはそのでは、地域住民との信頼関係の構築が重要であること、同時に支援計画の内容にはいくつかの種類の活動に分かれることを明らかにした。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 11 件)

- ① 與那嶺司・岡田進一・白澤政和：「生活施設における知的障害のある人の自己決定の構造—担当支援職員による質問紙に対する回答を基に—」社会福祉学 Vol. 49-4号、pp. 27~39 (2009)、査読有
- ② 與那嶺司・岡田進一・白澤政和：「施設規模と知的障害のある人の自己決定との関連—担当支援職員による質問紙に対する回答をもとに—」介護福祉学 Vol. 16-No.1、pp. 18~28 (2009)、査読有
- ③ 樽井康彦・岡田進一・白澤政和：「知的障害者施設において職員が経験する困難感と葛藤—社会福祉士に対するインタビューデータのM-GTAによる分析—」介護福祉学 Vol. 16-No.1、pp. 66~76 (2009)、査読有
- ④ Michiyo HIROSE, Shinichi OKADA, Masakazu SHIRASAWA : “ Factors Related to Cognitive Caregiving Appraisal by Family Caregivers – The Positive and Negative Aspects of Caregiving – ”, Japanese Journal of

Social Services Number 5 October, pp. 79~88 (2009)、査読有

- ⑤ 與那嶺司・岡田進一・白澤政和：「生活施設における支援環境と知的障害のある人の自己決定との関連—担当支援職員による質問紙に対する回答をもとに—」社会福祉学 Vol. 50-3号、pp. 41~53 (2009)、査読有
- ⑥ 岡田進一：「認知症ケアのチームアプローチ」臨牀看護35—7、pp. 1005~1012 (2009)、査読有
- ⑦ 橋本卓也・岡田進一・白澤政和：「障害者のセルフ・エンパワメントの内的生成要因について—自立生活を送る重度障害者に焦点をあてて—」『社会福祉学』 Vol. 48-4号 (通巻 84号)、pp. 105~117 (2008)、査読有
- ⑧ 樽井康彦・岡田進一・白澤政和：「知的障害者施設の施設長における脱施設化施策に関する意識の現状」『社会福祉学』 Vol. 48-4号 (通巻 84号)、pp. 118~130 (2008)、査読有
- ⑨ 岩間伸之：「地域を基盤としたソーシャルワークの機能—地域包括支援センターにおけるローカルガバナンスへの視角—」『地域福祉研究』第 36号、日本生命済生会、pp. 37-49 (2008)、査読無
- ⑩ 白澤政和：「ケアマネジメント実践の現状と今後の発展の方向性」保健の科学 Vol. 49. No7, pp. 454-458 (2008)、査読無
- ⑪ 白澤政和：「介護予防ケアマネジメントの課題と展望」総合ケア Vol. 17, No. 11, pp. 19-25 (2008)、査読無

[学会発表] (計 12 件)

- ① 白澤政和：韓日学術交流シンポジウム (招聘シンポジスト) 「社会福祉士の今後—「社会福祉士及び介護福祉士法改正」後の課題—」 “ International Conference of the Korean Academy of Social Welfare 2009 ” 2009.4.24~25、韓国 (2009)
- ② Masakazu Shirasawa, Ryosuke Hata, Kazutaka Masuda: "Relationship Between Characteristics of Home Helpers' Agencies and the Turnover Rate of Home helpers", The Gerontological society of America, 62nd Annual Scientific Meeting 2009.11.18~22, Atlanta USA (2009)
- ③ Kazutaka Masuda, Ryosuke Hata, Masakazu Shirasawa: "The Relationship Between the Approach of Home Nursing Support Offices and

Managing Agencies in Japan", The Gerontological society of America, 62nd Annual Scientific Meeting 2009.11.18~22 Atlanta USA (2009)

- ④ 白澤政和：日韓学術交流シンポジウム「ソーシャルワーカー養成の方向—専門性を高め、職域拡大は待遇向上に向けて—」『日本社会福祉学会第 57 回全国大会』2009. 10. 11、法政大学、東京 (2009)
- ⑤ 畑亮輔・白澤政和他：「ネットワーキング実践のプロセスに関する研究—コミュニティソーシャルワーカーに対するインタビューを基に—」『日本社会福祉学会第 57 回全国大会』2009. 10. 10~11、法政大学、東京 (2009)
- ⑥ 増田和高・白澤政和他：「地域包括支援センター・在宅介護支援センターによるネットワーキング活動の現状と課題—地域包括支援センター・在宅介護支援センターへの調査をもとに—」『日本社会福祉学会第 57 回全国大会プログラム』2009. 10. 10~11、法政大学、東京 (2009)
- ⑦ 白澤政和：「ソーシャルワーク実践における「領域」を再考する—社会的ニーズへの応答をめぐる—」『日本社会福祉実践理論学会第 26 回プログラム』2009. 7. 4~5、聖隷クリストファー大学、静岡 (2009)
- ⑧ 増田和高・白澤政和：「ケースアドボカシーに着目したサービス調整支援とその関連要因—サービス提供機関、職場内の上司・同僚との連携に焦点をあてて—」『日本社会福祉学会第 56 回全国大会プログラム』2008. 10. 11~12、日本社会福祉学会、pp. 19、岡山 (2008)
- ⑨ 畑亮輔・朝野英子・綾部貴子・堂園裕美・増田和高・與那嶺司・白澤政和：「介護支援専門員の役割認識に関する研究—ケアマネジメントの包括モデルに焦点を当てて—」『日本ケアマネジメント学会第 7 回研究大会抄録集』2008. 7. 24~25、pp. 80、熊本 (2008)
- ⑩ 岩間伸之：「日本におけるソーシャルワーク実践から実践モデルをどう導くか—ソーシャルワーク固有の実践モデルの形成をめぐる— [シンポジスト]」日本社会福祉実践理論学会第 25 回大会シンポジウム、2008. 6. 20~22、兵庫 (2008)
- ⑪ 白澤政和：国際シンポジウム「日本から見たアドボカシーとシンポジストの内容についての日本の政策および実践への応用」『国際シンポジウム 社会福祉

におけるアドボカシーおよび権利擁護の国際的現状と課題—福祉政策と実践の架け橋としてのアドボカシー—』2008. 01. 12、大阪 (2008)

- ⑫ Masakazu Shirasawa, "Comparative Study on Care Management Systems in the World", The 8th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology and Geriatrics, Beijing China (2007)

[図書] (計 6 件)

- ① 白澤政和：第 1 章「認知症の人のためのケアマネジメント」日本認知症ケア学会監修、本間昭編著『認知症ケアのためのケアマネジメント』、ワールドプランニング、pp. 1~32 (2008)
- ② 岩間伸之：『対人援助のための相談面接技術—逐語で学ぶ 21 の技法—』中央法規出版 (2008)
- ③ 白澤政和：『ストレングスモデルによる介護予防ケアマネジメント—理論と実際—』中央法規出版 pp. 1~59 (2008)
- ④ 白澤政和：『ストレングスモデルのケアマネジメント—いかに本人の意欲・能力・抱負を高めていくか—』ミネルヴァ書房、pp. 1~233 (2009)
- ⑤ 白澤政和：『新版・居宅サービス計画ガイドライン エンパワメントを引き出すケアプラン』社会福祉法人全国福祉協議会、pp. 1~254 (2009)
- ⑥ 白澤政和・蛭江紀雄：『ケアマネジメント—在宅・施設のケアプランの考え方・つくり方—』全国社会福祉協議会、pp. 1~97 (2009)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

白澤 政和 (SHIRASAWA MASAKAZU)
大阪市立大学・大学院生活科学研究科・教授
研究者番号：20094477

(2) 研究分担者

岩間 伸之 (IWAMA NOBUYUKI)
大阪市立大学・大学院生活科学研究科・准教授
研究者番号：00285298
岡田 進一 (OKADA SHINICHI)
大阪市立大学・大学院生活科学研究科・准教授
研究者番号：20291601
清水 由香
大阪市立大学・大学院生活科学研究科・

助教
研究者番号：90336793

(3) 連携研究者

加藤 曜子 (KATO YOKO)
流通科学大学・文芸学部・教授
研究者番号：90300269
(H18→H19：研究分担者)
福富 昌城 (FUKUTOMI MASAKI)
花園大学・社会福祉学部・准教授
研究者番号：10300237
(H18→H19：研究分担者)
大和 三重 (OHWA MIE)
関西学院大学・社会学部・准教授
研究者番号：00213900
(H18→H19：研究分担者)
小原 眞知子 (OHARA MACHIKO)
東海大学・健康科学部・教授
研究者番号：50330791
(H18→H19：研究分担者)
小西 加保留 (KONISHI KAORU)
関西学院大学・社会学部・教授
研究者番号：10068588
(H18→H19：研究分担者)
岡田 直人 (OKADA NAOTO)
北星学園大学・社会福祉学部・准教授
研究者番号：00331728
(H18→H19：研究分担者)
栄 セツコ (SAKAE SETSUKO)
桃山学院大学・社会学部・准教授
研究者番号：40319596
(H18→H19：研究分担者)
西村 昌記 (NISHIMURA MASANORI)
東海大学・健康科学部・准教授
研究者番号：70408037
(H18→H19：研究分担者)
村社 卓 (MURAKOSO TAKASHI)
岡山県立大学・保健福祉学部・准教授
研究者番号：80316124
(H18→H19：研究分担者)
小澤 温 (OZAWA ATSUSHI)
東洋大学・ライフデザイン学部・教授
研究者番号：00211821
(H18→H19：研究分担者)
鳥海 直美 (TORIUMI NAOMI)
四天王寺大学・人文社会学部・准教授
研究者番号：00388688
(H18→H19：研究分担者)
藤井 美和 (FUJII MIWA)
関西学院大学・社会学部・准教授
研究者番号：20330392
(H18→H19：研究分担者)
山下 裕史 (YAMASHITA YUUJI)

種智院大学・社会学部・講師
研究者番号：80388032
(H18→H19：研究分担者)
與那嶺 司 (YONAMINE TSUKASA)
大阪人間科学大学・人間科学部・准教授
研究者番号：90341031
(H18→H19：研究分担者)
綾部 貴子 (AYABE TAKAKO)
梅花女子大学・現代人間学部・講師
研究者番号：90331727
(H18→H19：研究分担者)
奥西 栄介 (OKUNISHI EISUKE)
神戸学院大学・医療福祉学部・准教授
研究者番号：70309665
石川 久展 (ISHIKAWA HISANORI)
関西学院大学・社会学部・教授
研究者番号：80222967

(4) 研究協力者

金 英淑 (KIM YONSOOK)
(韓国) 三育大学・社会福祉学部・教授
(研究者番号なし)
蔡 麟 (CAI RIN)
(中国) 上海師範大学・法政学院社会学研究所・教授 (研究者番号なし)